

JRCだより

(青少年赤十字 Junior Red Cross)



文責：JRC活動部

プルタブとペットボトルキャップの贈呈を行いました

学校だよりでも紹介がありましたが、去る2月15日(月)清水五校会の小学校が来校し、プルタブ贈呈式が行われました。本校が回収した分と小学校の皆様からお預かりした分を合わせて、先週3月2日(水)にJRC委員とJRC担当職員で社会福祉協議会へ届けました。社会福祉協議会で計量していただいたところ、プルタブの総量は240kg(個数にして約48万個)になり、本当に多くの方々にご協力いただいたのだと実感しました。この後、プルタブはリサイクル業者へ送られ、車いすに交換されるとのことでした。

一方、ペットボトルキャップは3月4日(金)にイオン佐世保店へ寄贈しました。職員の車だけでは積み込むことができず、学校管理員の坂本さんに軽トラックを出していただき、イオンまで運びました。この一年間で集まった大量のキャップを目の当たりにして、「一人で集めることのできる量は少なくとも、みんなで協力して集めると、こんなに膨大な量が集まるのだ」と改めて感じました。これは、まさにボランティアの精神につながると思います。清水中学校の代表としてイオンの職員の方から感謝状をいただいたJRC委員の達成感にあふれた、そしてどこか誇らしげな表情が印象的でした。



＜プルタブ贈呈の様子＞



＜ペットボトルキャップ贈呈の後に＞



＜イオンからいただいた感謝状＞

※ペットボトルキャップの最終回収量は180kg(個数にして約7万2千個)でした。

東日本大震災から5年、福島は今...

明日3月11日で東日本大震災から丸5年を迎えます。その日を前に、本校のJRC担当である瀬尾教諭と松添教諭が福島を訪問してきました。訪問の目的は、①収穫したひまわりの種と封筒メッセージを届けること、②全国各地から集まった団体が「福島ひまわり里親プロジェクト」の取組を紹介し合う「ひまわり甲子園全国大会」に参加すること、③昨年、清水中学校で収穫したひまわりの種が届けられ、原発事故で避難区域となった浪江中学校の訪問、④ひまわりの種の選別や袋詰め作業をされている福祉作業所「なごみ」の訪問、⑤放射能や除染についての現状を発信している施設「除染情報プラザ」の見学でした。2泊3日の短い滞在期間ではありましたが、二人の教諭はとても貴重な体験をし、今なお復興が完全には進んでいない被災地の現状を私たちに発信しています。

私たちも、いつどこで災害に巻き込まれるか分かりません。決して他人事ではないことを常に意識し、被災地への関心を持って、今私たちにできる復興支援を続けていしましょう。3月11日を前に、テレビでは震災を特集した番組が放映され、新聞では特集記事が掲載されています。ぜひ、ご家庭でも生徒と一緒に話をしてほしいと思います。



＜浪江中学校の校長先生と＞

今年度のJRCだよりは、今号が最終号となります。公立高校入試も終了し、3年生は間もなく卒業式ですね。高校に進学しても、清水中学校で取り組んだ「気づき、考え、実行する」JRCの精神を忘れず、進んでボランティア活動に参加できる人間に成長してください。皆さんの未来が輝くものになるようお祈りしています。

JRCだより

(青少年赤十字 Junior Red Cross)



文責：JRC活動部

プルタブとペットボトルキャップの贈呈を行いました

学校だよりでも紹介がありましたが、去る2月15日(月)清水五校会の小学校が来校し、プルタブ贈呈式が行われました。本校が回収した分と小学校の皆様からお預かりした分を合わせて、先週3月2日(水)にJRC委員とJRC担当職員で社会福祉協議会へ届けました。社会福祉協議会で計量していただいたところ、プルタブの総量は240kg(個数にして約48万個)になり、本当に多くの方々にご協力いただいたのだと実感しました。この後、プルタブはリサイクル業者へ送られ、車いすに交換されるとのことでした。

一方、ペットボトルキャップは3月4日(金)にイオン佐世保店へ寄贈しました。職員の車だけでは積み込むことができず、学校管理員の坂本さんに軽トラックを出していただき、イオンまで運びました。この一年間で集まった大量のキャップを目の当たりにして、「一人で集めることのできる量は少なくとも、みんなで協力して集めると、こんなに膨大な量が集まるのだ」と改めて感じました。これは、まさにボランティアの精神につながると思います。清水中学校の代表としてイオンの職員の方から感謝状をいただいたJRC委員の達成感にあふれた、そしてどこか誇らしげな表情が印象的でした。



＜プルタブ贈呈の様子＞



＜ペットボトルキャップ贈呈の後に＞



＜イオンからいただいた感謝状＞

※ペットボトルキャップの最終回収量は180kg(個数にして約7万2千個)でした。



東日本大震災から5年、福島は今...

明日3月11日で東日本大震災から丸5年を迎えます。その日を前に、本校のJRC担当である瀬尾教諭と松添教諭が福島を訪問してきました。訪問の目的は、①収穫したひまわりの種と封筒メッセージを届けること、②全国各地から集まった団体が「福島ひまわり里親プロジェクト」の取組を紹介し合う「ひまわり甲子園全国大会」に参加すること、③昨年、清水中学校で収穫したひまわりの種が届けられ、原発事故で避難区域となった浪江中学校の訪問、④ひまわりの種の選別や袋詰め作業をされている福祉作業所「なごみ」の訪問、⑤放射能や除染についての現状を発信している施設「除染情報プラザ」の見学でした。2泊3日の短い滞在期間ではありましたが、二人の教諭はとても貴重な体験をし、今なお復興が完全には進んでいない被災地の現状を私たちに発信しています。

私たちも、いつどこで災害に巻き込まれるか分かりません。決して他人事ではないことを常に意識し、被災地への関心を持って、今私たちにできる復興支援を続けていしましょう。3月11日を前に、テレビでは震災を特集した番組が放映され、新聞では特集記事が掲載されています。ぜひ、ご家庭でも生徒と一緒に話をしてほしいと思います。



＜浪江中学校の校長先生と＞

今年度のJRCだよりは、今号が最終号となります。公立高校入試も終了し、3年生は間もなく卒業式ですね。高校に進学しても、清水中学校で取り組んだ「気づき、考え、実行する」JRCの精神を忘れず、進んでボランティア活動に参加できる人間に成長してください。皆さんの未来が輝くものになるようお祈りしています。

JRCだより

(青少年赤十字 Junior Red Cross)



文責：JRC活動部

プルタブとペットボトルキャップの贈呈を行いました

学校だよりでも紹介がありましたが、去る2月15日(月)清水五校会の小学校が来校し、プルタブ贈呈式が行われました。本校が回収した分と小学校の皆様からお預かりした分を合わせて、先週3月2日(水)にJRC委員とJRC担当職員で社会福祉協議会へ届けました。社会福祉協議会で計量していただいたところ、プルタブの総量は240kg(個数にして約48万個)になり、本当に多くの方々にご協力いただいたのだと実感しました。この後、プルタブはリサイクル業者へ送られ、車いすに交換されるとのことでした。

一方、ペットボトルキャップは3月4日(金)にイオン佐世保店へ寄贈しました。職員の車だけでは積み込むことができず、学校管理員の坂本さんに軽トラックを出していただき、イオンまで運びました。この一年間で集まった大量のキャップを目の当たりにして、「一人で集めることのできる量は少なくとも、みんなで協力して集めると、こんなに膨大な量が集まるのだ」と改めて感じました。これは、まさにボランティアの精神につながると思います。清水中学校の代表としてイオンの職員の方から感謝状をいただいたJRC委員の達成感にあふれた、そしてどこか誇らしげな表情が印象的でした。



＜プルタブ贈呈の様子＞



＜ペットボトルキャップ贈呈の後に＞



＜イオンからいただいた感謝状＞

※ペットボトルキャップの最終回収量は180kg(個数にして約7万2千個)でした。

東日本大震災から5年、福島は今...

明日3月11日で東日本大震災から丸5年を迎えます。その日を前に、本校のJRC担当である瀬尾教諭と松添教諭が福島を訪問してきました。訪問の目的は、①収穫したひまわりの種と封筒メッセージを届けること、②全国各地から集まった団体が「福島ひまわり里親プロジェクト」の取組を紹介し合う「ひまわり甲子園全国大会」に参加すること、③昨年、清水中学校で収穫したひまわりの種が届けられ、原発事故で避難区域となった浪江中学校の訪問、④ひまわりの種の選別や袋詰め作業をされている福祉作業所「なごみ」の訪問、⑤放射能や除染についての現状を発信している施設「除染情報プラザ」の見学でした。2泊3日の短い滞在期間ではありましたが、二人の教諭はとても貴重な体験をし、今なお復興が完全には進んでいない被災地の現状を私たちに発信しています。

私たちも、いつどこで災害に巻き込まれるか分かりません。決して他人事ではないことを常に意識し、被災地への関心を持って、今私たちにできる復興支援を続けていしましょう。3月11日を前に、テレビでは震災を特集した番組が放映され、新聞では特集記事が掲載されています。ぜひ、ご家庭でも生徒と一緒に話をしてほしいと思います。



＜浪江中学校の校長先生と＞

今年度のJRCだよりは、今号が最終号となります。公立高校入試も終了し、3年生は間もなく卒業式ですね。高校に進学しても、清水中学校で取り組んだ「気づき、考え、実行する」JRCの精神を忘れず、進んでボランティア活動に参加できる人間に成長してください。皆さんの未来が輝くものになるようお祈りしています。

JRCだより

(青少年赤十字 Junior Red Cross)



文責：JRC活動部

プルタブとペットボトルキャップの贈呈を行いました

学校だよりでも紹介がありましたが、去る2月15日(月)清水五校会の小学校が来校し、プルタブ贈呈式が行われました。本校が回収した分と小学校の皆様からお預かりした分を合わせて、先週3月2日(水)にJRC委員とJRC担当職員で社会福祉協議会へ届けました。社会福祉協議会で計量していただいたところ、プルタブの総量は240kg(個数にして約48万個)になり、本当に多くの方々にご協力いただいたのだと実感しました。この後、プルタブはリサイクル業者へ送られ、車いすに交換されるとのことでした。

一方、ペットボトルキャップは3月4日(金)にイオン佐世保店へ寄贈しました。職員の車だけでは積み込むことができず、学校管理員の坂本さんに軽トラックを出していただき、イオンまで運びました。この一年間で集まった大量のキャップを目の当たりにして、「一人で集めることのできる量は少なくとも、みんなで協力して集めると、こんなに膨大な量が集まるのだ」と改めて感じました。これは、まさにボランティアの精神につながると思います。清水中学校の代表としてイオンの職員の方から感謝状をいただいたJRC委員の達成感にあふれた、そしてどこか誇らしげな表情が印象的でした。



＜プルタブ贈呈の様子＞



＜ペットボトルキャップ贈呈の後に＞



＜イオンからいただいた感謝状＞

※ペットボトルキャップの最終回収量は180kg(個数にして約7万2千個)でした。



東日本大震災から5年、福島は今...

明日3月11日で東日本大震災から丸5年を迎えます。その日を前に、本校のJRC担当である瀬尾教諭と松添教諭が福島を訪問してきました。訪問の目的は、①収穫したひまわりの種と封筒メッセージを届けること、②全国各地から集まった団体が「福島ひまわり里親プロジェクト」の取組を紹介し合う「ひまわり甲子園全国大会」に参加すること、③昨年、清水中学校で収穫したひまわりの種が届けられ、原発事故で避難区域となった浪江中学校の訪問、④ひまわりの種の選別や袋詰め作業をされている福祉作業所「なごみ」の訪問、⑤放射能や除染についての現状を発信している施設「除染情報プラザ」の見学でした。2泊3日の短い滞在期間ではありましたが、二人の教諭はとても貴重な体験をし、今なお復興が完全には進んでいない被災地の現状を私たちに発信しています。

私たちも、いつどこで災害に巻き込まれるか分かりません。決して他人事ではないことを常に意識し、被災地への関心を持って、今私たちにできる復興支援を続けていしましょう。3月11日を前に、テレビでは震災を特集した番組が放映され、新聞では特集記事が掲載されています。ぜひ、ご家庭でも生徒と一緒に話をしてほしいと思います。



＜浪江中学校の校長先生と＞

今年度のJRCだよりは、今号が最終号となります。公立高校入試も終了し、3年生は間もなく卒業式ですね。高校に進学しても、清水中学校で取り組んだ「気づき、考え、実行する」JRCの精神を忘れず、進んでボランティア活動に参加できる人間に成長してください。皆さんの未来が輝くものになるようお祈りしています。

JRCだより

(青少年赤十字 Junior Red Cross)



文責：JRC活動部

プルタブとペットボトルキャップの贈呈を行いました

学校だよりでも紹介がありましたが、去る2月15日(月)清水五校会の小学校が来校し、プルタブ贈呈式が行われました。本校が回収した分と小学校の皆様からお預かりした分を合わせて、先週3月2日(水)にJRC委員とJRC担当職員で社会福祉協議会へ届けました。社会福祉協議会で計量していただいたところ、プルタブの総量は240kg(個数にして約48万個)になり、本当に多くの方々にご協力いただいたのだと実感しました。この後、プルタブはリサイクル業者へ送られ、車いすに交換されるとのことでした。

一方、ペットボトルキャップは3月4日(金)にイオン佐世保店へ寄贈しました。職員の車だけでは積み込むことができず、学校管理員の坂本さんに軽トラックを出していただき、イオンまで運びました。この一年間で集まった大量のキャップを目の当たりにして、「一人で集めることのできる量は少なくとも、みんなで協力して集めると、こんなに膨大な量が集まるのだ」と改めて感じました。これは、まさにボランティアの精神につながると思います。清水中学校の代表としてイオンの職員の方から感謝状をいただいたJRC委員の達成感にあふれた、そしてどこか誇らしげな表情が印象的でした。



＜プルタブ贈呈の様子＞



＜ペットボトルキャップ贈呈の後に＞



＜イオンからいただいた感謝状＞

※ペットボトルキャップの最終回収量は180kg(個数にして約7万2千個)でした。



東日本大震災から5年、福島は今...

明日3月11日で東日本大震災から丸5年を迎えます。その日を前に、本校のJRC担当である瀬尾教諭と松添教諭が福島を訪問してきました。訪問の目的は、①収穫したひまわりの種と封筒メッセージを届けること、②全国各地から集まった団体が「福島ひまわり里親プロジェクト」の取組を紹介し合う「ひまわり甲子園全国大会」に参加すること、③昨年、清水中学校で収穫したひまわりの種が届けられ、原発事故で避難区域となった浪江中学校の訪問、④ひまわりの種の選別や袋詰め作業をされている福祉作業所「なごみ」の訪問、⑤放射能や除染についての現状を発信している施設「除染情報プラザ」の見学でした。2泊3日の短い滞在期間ではありましたが、二人の教諭はとても貴重な体験をし、今なお復興が完全には進んでいない被災地の現状を私たちに発信しています。

私たちも、いつどこで災害に巻き込まれるか分かりません。決して他人事ではないことを常に意識し、被災地への関心を持って、今私たちにできる復興支援を続けていしましょう。3月11日を前に、テレビでは震災を特集した番組が放映され、新聞では特集記事が掲載されています。ぜひ、ご家庭でも生徒と一緒に話をしてほしいと思います。



＜浪江中学校の校長先生と＞

今年度のJRCだよりは、今号が最終号となります。公立高校入試も終了し、3年生は間もなく卒業式ですね。高校に進学しても、清水中学校で取り組んだ「気づき、考え、実行する」JRCの精神を忘れず、進んでボランティア活動に参加できる人間に成長してください。皆さんの未来が輝くものになるようお祈りしています。